

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第20号
文責 校長 西村羊治
令和7年6月9日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

水俣に学ぶ肥後っ子教室

5年生 集合写真

6月5日（木）、晴天でした。昼間の外の気温はぐんぐん上がり、28℃近くまで上昇しました。その晴天の中、我が校の5年生は水俣に大切な学習に行きました。水俣病資料館・熊本県環境センター、情報センターなど、国・県・水俣市の施設で学習し、水俣のきれいな海やそこで泳いでいる魚も見ることができました。5年生のみんなは、興味津々でしっかり学習していました。現地やバスの中での過ごし方で、由美先生



環境学習



生や一恵先生にありがたいご指導を受けてしまうこともありますが、この1日の経験でしっかり「成長」できたことは間違いありません。教室ではできない今回の学びは一人一人の成長につながったと思います。

どんな学習をしたかという、まず環境センターでは水俣病に関する語り部の方のお話を聞かせていただきました。その方は、以前チッソに勤めておられた方でした。最初はチッソが訴えられることで自分たちの身はどうなるのか不安があったそうです。しかし、

被害者の方の中に小学校の時に世話になった先生がいて、水俣病のことで水俣の人同士が争う状況は、とても悲しかったとのことでした。また、チッソを退職した後一市民として「水俣病展」に参加したそうです。その時に初めて被害者の方々の本当の気持ちがあったとのことでした。今ではふるさとを守ることはもちろん公害病で苦しんだ人がいたことを正しく知ってもらうため、強い心を持って語り部をしているとのことでした。



水俣のきれいな海

また、環境学習では主に水のことについて考えました。

「実際にはできませんが、地球をギュッと縮めて直径1mぐらいにしたとします。その大きさの場合、地球に存在する水の量は、1リットルのペットボトルの本数にして何本になるでしょう？」という質問からスタートしました。①1本、②5本、③10本、さてこの3つのうちどれでしょう？ ある子は、「海：陸は7：3だから～」と

1日お世話になったバスの運転手さんにお礼のあいさつ



と考えていました。③を選ぶ子が多かったのですが、正解は、①の1本、いやそれより少ないでした。また、生き物が使える真水（海水ではない）は、ほんの数%であることもわかりました。「えーっ！」と、5年生の驚き様はすごいものでした。こう説明を受けると水の貴重さがよくわかります。

今回の学びで、公害の恐ろしさや環境の大切さをさらに知ることができました。学んだことをこれからの生活に活かしてくれれることと思います。